

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 89 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成 21 年 5 月 30 日 (土)  
 会 場 万代シルバーホテル 5 階  
 「昭和の間」

### I. 一 般 演 題

#### 1 日常臨床で遭遇した亜急性甲状腺炎の 2 例

星山 真理・星山 彩子\*  
 柏崎中央病院内科  
 公立昭和病院内分泌代謝科\*

症例は 58 歳，女性。

【主訴および現病歴】倦怠感，10kg の体重減少，嘔気，軟便が 09 年 3 月 17 日よりあり，近医で治療するも症状続き，3 月 25 日当科初診。

【現症】血圧 128/68mmHg，脈拍 103/分・整，体温 36.9℃。

【頸部】表面弾性硬の自発痛・圧痛を伴う甲状腺腫を触知。眼球突出なし。胸腹部異常なし。手指振戦と湿潤を認めた。

【初診時検査所見】CRP 0.92，WBC 5,100，AST 280，ALT 210，FT3 20，FT4 11，TSH 0.1，TRAb 42.6%，TGPA 100 未満，MCPA 1,600 倍。

【甲状腺エコー】甲状腺はびまん性に腫大し，圧痛のある部位で低エコーは認めなかった。

【家族歴】特記すべきことなし。

【既往歴】02 年，乳がん手術施行。

【臨床経過】甲状腺機能亢進症に対してインデラル 60mg/日，プレドニン 30mg/日の投与開始後，速やかに甲状腺腫および諸症状は改善したが，FT3，FT4，TRAb が高いことよりバセドー病としてプレドニンの漸減およびメルカゾール投与に切り替えたところ症状の再発を認め，現在 3 剤にて

軽快している。

【問題点】バセドー病に亜急性甲状腺炎の合併は亜急性甲状腺炎に特徴的な HLA-B35 は陰性であったことから考えにくい。むしろ亜急性甲状腺炎に類似した病態を呈した橋本病急性増悪型が合併した可能性もあり，今後ステロイド離脱困難例になっていくのか甲状腺機能を注意深く観察する予定である。

#### 2 極めて急速な経過をたどった副甲状腺機能亢進症の 1 例

宮腰 将史・富田 任\*・清水 博\*  
 島田 晃治\*\*・中山 卓\*\*  
 鴨井 久司\*\*\*

県立中央病院内分泌代謝科  
 同 循環器内科\*  
 同 心臓血管外科\*\*  
 長岡赤十字病院糖尿病・内分泌代謝内科\*\*\*

#### 3 副甲状腺機能亢進症に対する定位放射線治療の試み

伊藤 猛・鴨井 久司\*  
 長岡赤十字病院放射線科  
 同 糖尿病・内分泌代謝内科\*

#### 4 人間ドックで発見された副腎腫瘍

小笠原美代子・渡辺由加里・小林 明美  
 伊藤 智子・牧田真理子・高橋 綾子  
 土田加代子・柴嶺 和美・永野 優子  
 相田ゆかり・新妻 伸二

ブラーカ健康増進センター

【目的】これまで発見された副腎腫瘍の多くは偶発発見腫瘍 (incidentaloma) と呼ばれているが，その頻度その他について調査した。

【対象】1995 年 6 月から 2009 年 3 月までに胸部 CT 検査を受診した総件数 32,640 件，実人数 16,068 名。17 歳男性から 94 歳女性までを含み，平均年齢は 51.6 ± 10.0 歳であった。これらを対